

2 Social Well-being 研究

地域創生・ワークインライフ分野における Social Well-being 研究の取り組み

デジタルとリアルが連携する分散型ネットワーク社会において、個人の自律と集団の調和が利他的に共存している状態「Social Well-being」の実現に向け、人の内在的価値を重視する Well-being に基づくサービスや社会の仕組みを共創するための方法論とその実践による社会価値創出の取り組みについて紹介する。

分散型ネットワーク社会における Social Well-being という考え方

デジタル空間とリアル空間が連携し、人がそれぞれの空間の様々な集団に属しながら活動できる分散型ネットワーク社会が広がってきている。分散型ネットワーク社会における社会の在り方として、われわれは、個人の自律と集団の調和が利他的に共存する「Social Well-being」というコンセプトを提唱している。

内在的価値を重視し、自分を取り巻く人やモノも大事にする考え方が広まることで、集団（組織）のために自分を犠牲にすることや、個人の価値観や役割が固定化することで集

団の中で機能不全が起こるといった、個人と集団の二項対立を超え、個人と集団のよい状態が共存する社会をめざしている。

特に、コロナ禍によりリモートワークが一気に加速し、人が地域に分散したまま活動できる新たな生活様式が浸透してきたことに着目し、地域創生とワークインライフの2つの分野に注力して研究を進めている。

Social Well-being デザイン フレームワークの研究

Social Well-being のコンセプトの実現に向け、Well-being に基づくサービスや社会の仕組みを、コンセプトに共感する多様なパートナーと



NTT 社会情報研究所
Well-being 研究プロジェクト
リビングラボ推進グループ
グループリーダー 西川 嘉樹氏

共創し、得られたノウハウを方法論化する「Well-being デザインフレームワーク」の研究開発に取り組んでいる（図1）。具体的には、Well-being に関する価値観を大切にしながら共創を推進するための共創支援ツール、遠隔コミュニケーション支援技術、Well-being 計測技術の研究開発に取り組んでいる。

共創支援ツール

コミュニケーション科学基礎研究所が研究開発した自己の価値観への気づきや、他者の価値観の理解を促進するためのツール「わたしたちのウェルビーイングカード」を応用し、立場が異なる人同士が Well-being 価値観に基づくチームビルディングやアイデア創出を実践するための対話型

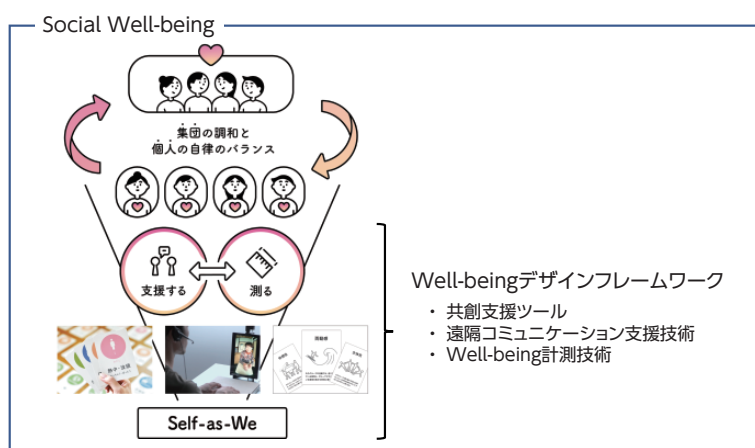


図1 Well-being デザインフレームワーク概念図

ワークショップを研究開発している。

遠隔コミュニケーション支援技術

分散型ネットワーク社会において、遠隔でも感覚を伝え合う方法として、「触覚」に着目し、触れることで生じる振動情報を計測し送信する振動伝送技術を活用したコミュニケーション方法をデザインし実践している。

Well-being 計測技術

京都大学 出口教授が提唱している東アジアの思想伝統を踏まえた全体論的自己観「われわれとしての自己 (Self-as-We)」をもとに、職場や地域コミュニティーなど様々な集団における Well-being を計測するための心理尺度を研究開発している。

実践を通じた社会価値の創出

Well-being デザインフレームワークを実践し、Social Well-being のコンセプトを体感できるサービスや仕組みの創出に取り組んでいる。

地域創生の取り組み

高野山で受け継がれてきた思想・教えが Social Well-being のコンセプトと高い親和性を持つことを踏まえ、高野山に関係するパートナーである高野山大学を始めとする多様な

パートナーとともに、高野山の自然・文化・伝統を活かし Social Well-being につながる体験を共創し、NTT 西日本が運営するオープンイノベーション施設 QUINTBRIDGE で実証実験を実施した。

「わたしたちのウェルビーイングカード」を用いたパートナーとの対話により、高野山という地域の魅力を通じて得られる Well-being の要因を3つの価値に整理し、ICT を活用することで、その価値を生活者の身近な場所（生活圏）やデジタル空間（メタバース）でも感じられる体験を創出した（図2）。この体験により、高野山に興味はあるが現地に行くのをためらっている人や現地に行った後もつながりを持続したい人など、それぞれの人が関わりやすい形で体験できるようにすることで、Well-being と同時に高野山への興味を喚起・持続し、関係人口の増加による地域創生をめざしている。

・生活圏での体験

振動伝送技術を活用することで、遠隔地でも高野山の僧侶の動作を体感し、金剛峯寺内の見学、金剛峯寺にある阿字観道場での瞑想を体験できる。視覚・聴覚に加えて触覚も提示することで、多様な感覚で風景の

中の変化を感じ取り、生活圏においても実体感のある体験ができ、現地での体験に近い個人の Well-being 体験ができる。また、現地の僧侶の動作を通じて生じた振動を音やリズムとして身体に巡らせることで、高野山とのつながりを肌で感じることや、瞑想の経験者（僧侶）の動作のコツを体感することができる。

・メタバースでの体験

「わたしたちのウェルビーイングカード」を活用し、自分自身がよい時を過ごしていたと感じる写真で構成される「Well-being マイマンダラ」を作成する。Well-being マイマンダラは、高野山の教えを表現している「曼荼羅（まんだら）」の様式に倣っており、自分自身の Well-being に基づく内観を促す。また、Well-being マイマンダラを複数人で共有しながら対話をする中で、お互いの価値観理解を促す。さらに、複数人の Well-being マイマンダラを融合して作られる「Well-being チームマンダラ」を用いた対話により、集団がもつ Well-being 価値観の多様性と、その中の一員である自分を俯瞰して感じることができる。

ワークインライフの取り組み

職場の Self-as-We 度を計測するために、質問項目を削減することで回答者の負担を軽減した短縮版 Self-as-We 尺度を構成し、ダイバーシティ推進室が企画した NTT グループ 15 万人を対象としたエンゲージメント調査の一環として、アンケートを実施した。今後は、継続的なアンケート調査をもとに、Well-being な職場づくりの提案・施策を繰り返すことで EX を向上させ、CX の創造への貢献をめざす。

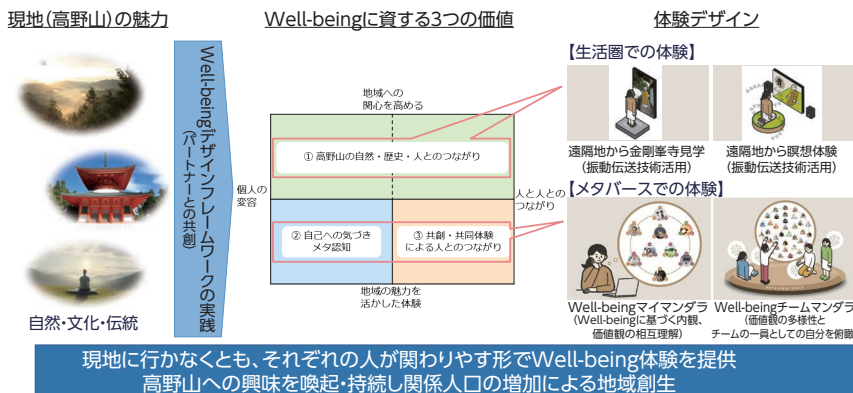


図2 地域創生の取り組み